

水の大切さ

鹿児島修学館中学校 一年

高嶋 たかしま

奏史郎 そうしろう

「サー」

水が引いていき、僕の目の前にその道が現れました。中潮の日、午前、その道を通って小島まで渡ることができました。潮の満ち引きで引き起こされる水の大移動。自然のダイナミックさを感じました。トイレも水もないとのアナウンスがあり、水をもって小石時間で島に渡りました。私は、エコ体験、視線体験ができる施設であるエコキャンプ場に行きました。海のそばで、温泉もあり、キャンプもできるようになっていきます。そのキャンプ場で家族と三泊過ごしました。キャンプ場は、トイレや炊事場などである程度の水はあります。しかし各サイトに水道があるわけではなく、僕がタンクに水を汲んで準備しました。七十メートルほどの短い距離ですが、結構水が重いので運ぶのは大変でした。また、すぐに無くなってしまうので多くの水を使う

ことができません。料理のみならず手洗いや歯磨きなどの生活用水も必要です。タンクに入れておく水は、あまり清潔とは言えないので少し心配です。このような体験をして、自分が自宅にいていつでもきれいな水を使うことができる生活は、本当にありがたいことだと実感できました。

一方で、入浴は自然の恵みである温泉を利用でき、その温泉水はやや茶色っぽく、塩味でしたが、少し肌が滑らかになり、加えてゆったりした気持ちになり、最高の気分でした。自然に恵まれた鹿児島県は、本当に素晴らしい場所と再認識しました。

以上の体験もそうですが、知らず知らず水と関わり生活しています。もちろん、水は様々な用途に使われます。僕の身近な生活用水、学校や施設で使うもの、鹿児島県で盛んな農業に使う水、工場で使う水などどれも必要不可欠なものです。地球の人口増加に伴い水の需要は増えており、一方で雨の量は増えるわ

けではないので、水の確保を行うか、再利用を増やして循環させるか、個人のみならず工業などで使用する水を減らさねばなりません。農業では水が少なくても育つように品種改良なども必要です。私自身は、節水するしか思い当たりませんが、人々がそれぞれの立場で努力するのが重要だと思います。

世界に目を向けると、水の足りない国がたくさんあります、上下水道の完備されていない国もたくさんあります。前に僕がキャンプ場で水を運ぶ話を書きましたが、アフリカでは、遠くの川や井戸から子供や女性が頭に水瓶を乗せて家まで数キロの距離を毎日運んでいる事実をテレビで目にしました。日本では世界にも少ないそのまま飲めるきれいな水が出てくる事と比べて、アフリカの厳しさを実感しました。一步、日本は大変恵まれている国であることも分かりました。日本の水のために努力している人々に感謝し、誇りに思います。日本人は几帳面であり、古来、衛生的

であったこともこのようなシステムが出来上がったことと関係しているのだと思います。水が汚れていると伝染病が広がると聞きました。新型コロナ感染症により、感染症蔓延防止のため、衛生観念がクローズアップされ、その点でも日本のきれいな水の評価は高いと思います。僕はこのようなきれいな水を供給するシステムが、いつの日か世界の発展途上国に届けば良いと思いました。

水について今、学生である自分にできる事は少ないですが、水についてよく理解することとが最も大切なことではないかと思っています。自分がその知識をこれからもアップデートしながら、水の大切さを考えながら生活していく。また多くの人もそうすることで水不足がなくより良い水循環がうまくいき、人々の水に囲まれた生活が継続していくのではないかと思います。